



【2017-09-20】

遊道楽歩（雑感）

書を友に、酒を楽しみ、  
人生を味わう

今週の雑感

『里山のウグイスと  
清澄寺のウグイス』

長野修二

## 里山のウグイスと清澄寺のウグイス

---

この地も春になるとウグイスがよくさえずっていますが、ウグイスはもともと藪の中などで鳴く鳥のようで姿を見ることはありません。それでもウグイスの鳴き声にしばし散歩の足を止めて聴きほれてしまいます。

春から夏にかけて田んぼを散歩すると、田んぼのそばの里山の雑木林の中からウグイスの鳴き声を聴くことができます。

その鳴き声を聞けば、不思議と清々しい気持ちになったりするものです。

姿をみたことは一度もありませんが、この鳥の鳴き声を聞くと、春の訪れにわが身の心が躍っているのがはっきりとわかります。

6月のある日、鴨川の清澄寺へでかけました。



別にウグイスの鳴き声を聴くために清澄寺へでかけたのではありませんが、本来の目的は、清澄寺で咲いているゆりの花を見るためにでかけました。

清澄寺（せいちょうじ）は、ウキペディアによると千葉県鴨川市清澄にある日蓮宗の大本山で日蓮が出家得度および立教開宗した寺とされ、久遠寺、池上本門寺、誕生寺とともに日蓮宗四霊場と呼ばれているそうです。

また、清澄山の主峰は標高377mの妙見山で、千葉県で3番目に高い山であり、清澄寺の本堂付近の標高は約310メートルだそうです。

清澄寺へいくのははじめてでしたので、[Google Mapでルート検索](#)すると茂原市、大多喜町などを通り、粟又ノ滝方面へ続く道路が提示され、その道に問題はないだろうと考え、ルート検索に従っていくことにしました。

ところが、このルートは、栗又ノ滝への入口付近までは、道路が整備されているのですが、これ以降は山岳地帯を走る悪路でした。

ほぼ一車線のかかなり狭い山道ですので休日などに利用すると、とんでもない状況に陥ることでしょう。

清澄寺に行かれる場合には、やはり海側の国道を利用していかれることをおすすめします。

私たちも帰路は、当然のように海側の国道を利用しました。

このような山道をなんとか潜り抜けて到着した清澄寺は、山の斜面に建立されていましたが、標高が高いことからまわりは静寂な森のたたずまいのようです。





到着して車を降りると、途端にウグイスの鳴き声が聞こえてくるではありませんか。

それも澄んだ声でまわりに響き渡るように大きな声でさえずっているのです。

里山で聞くウグイスの鳴き声とは、声色や響きがあきらかに違います。それだけ人に近いところで鳴いているようです。

しばし、ウグイスの鳴き声に聴きほれて、本来の目的であるゆりの花を見に行くことにしましたが、この道すがら木の上でウグイスが鳴いているではありませんか。

先ほどとは違い私たちは木の真下でウグイスの鳴き声を聴いているのでした。

これはなかなか強烈な印象を残すほどのさえずりと独特な鳴き声の節回しがあり、私たち夫婦は、その木の脇で長いことたたずんでしまいました。

それほどまでに身近なところで鳴くウグイスの声は、里山で聴く鳴き声とは各段の違いがあります。

まるで音響効果が効いている劇場の中で鳴き声を聞いているようで、すばらしい臨場感があります。

ゆりの花もきれいでしたが、こちらは植栽されたもので管理してありますから、高原でみるやまゆりなどの花のような可憐さはありません。参拝者が増えてくれるようにと、植えられているのですが、それにひかれていく私たち夫婦でしたが、やはり自然が豊かなところへきてみれば、ゆりだけでなく、身近な自然の中に暮らしている生き物たちのすばらしさを感じることができるのかもわかりません。



境内はそれほど広いわけではありませんから、2時間もあれば十分に自然を堪能できるのではないのでしょうか。





